



整備中の百足塚古墳

にゅうたばる

むかでづか

新田原古墳群と百足塚古墳のはにわ

平成22年度百足塚古墳のはにわ展 展示リーフレット



新富町教育委員会



2011

新田原古墳群と百足塚古墳のはにわ

平成 22 年度百足塚古墳のはにわ展 展示リーフレット

はじめに

新田原古墳群は、昭和 19 年に国の指定をうけた史跡です。その構成は前方後円墳 25 基を含む総数 207 基で、宮崎県内でも 2 番手の規模です。

新富町では、この史跡を後世に伝え、保存活用するために史跡整備事業をすすめています。

古墳群の性格は長く不明でしたが、近年の調査ですこしずつ年代などの内容が判明してきました。今後とも歴史的な資料を保存し、豊かな町づくりに活かしていく所存です。

新富町教育委員会 教育長 米良郁子

例 言

本書は平成 23 年 1 月 13 日から 2 月 13 日にかけて新富町教育委員会が新富町文化会館において開催する「百足塚古墳のはにわ展」の展示リーフレットです。

百足塚古墳の埴輪を理解していただくために、同墳を含む新田原古墳群を紹介します。

目 次

1. 日向地方の古墳群・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 一ツ瀬川流域の古墳と古墳群・・・・・・・・・・・・・ 2・3
3. 新田原古墳群と祇園原古墳群・・・・・・・・・・・・・ 4・5
4. 発掘された百足塚古墳・・・・・・・・・・・・・ 6・7
5. 百足塚古墳の形象埴輪群・・・・・・・・・・・・・ 8・9

作成：新富町教育委員会

編集・執筆：有馬義人（生涯学習課）

キャラクターデザイン：圓崎宏美（生涯学習課）

写真協力：東憲章（宮崎県文化財課）

牛嶋茂（独立行政法人奈良文化財研究所）



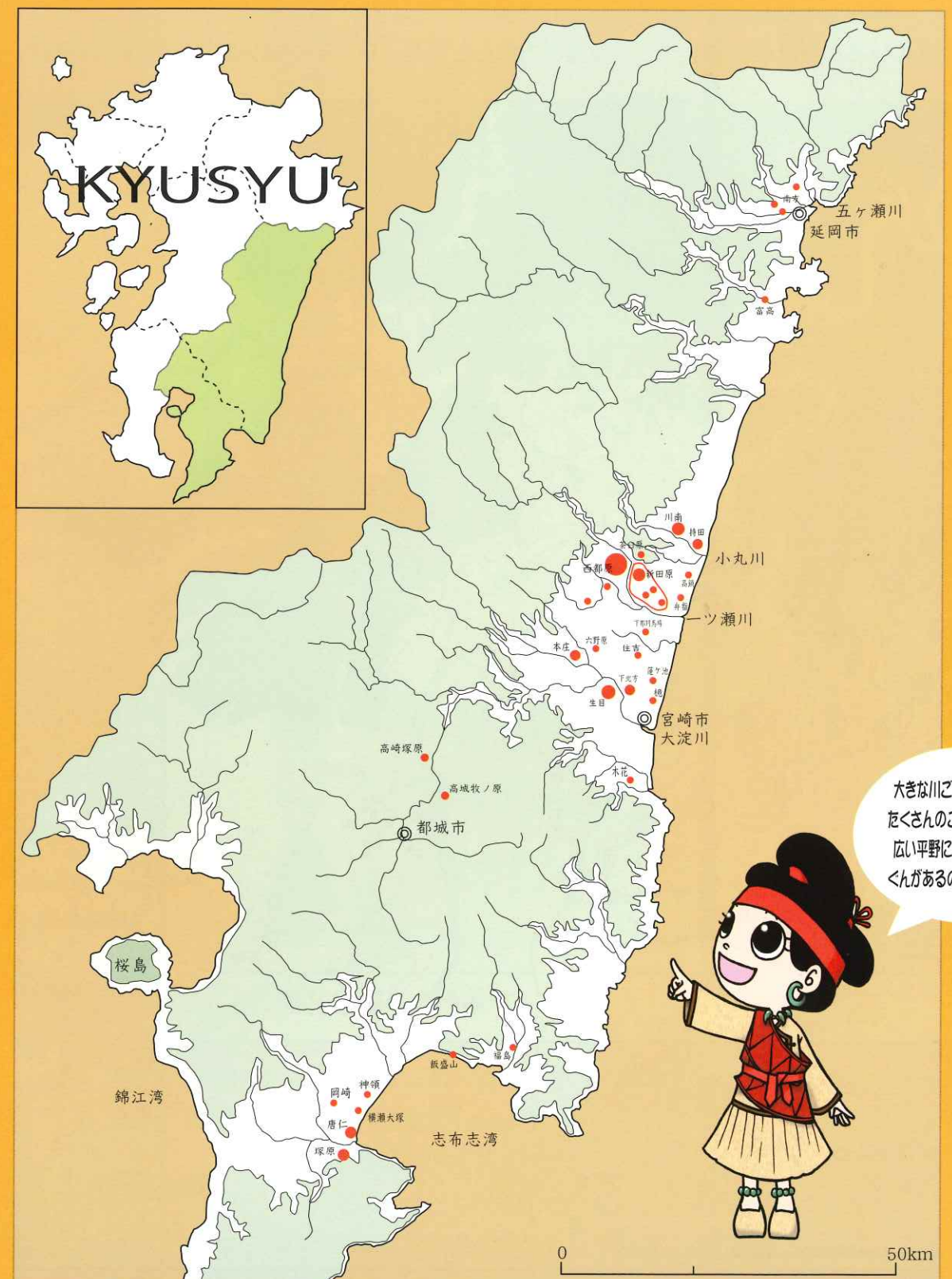
新田原古墳群イメージキャラクター
みこちゃん

1. 日向地方の古墳群

古墳時代は 1600 年から 1400 年くらい前の時代です。

「古墳」とは、日本列島の各地域を支配した首長のお墓で、現在の奈良県や大阪府を中心とした大和政権が編み出した「祭政一致」のモニュメントでした。古墳をつくった首長や大和政権の大王たちは連携しながら「倭国＝今の日本列島」を支配していました。

今の宮崎県から鹿児島県大隅半島にはそのことを物語る多数の古墳が残されています。それぞれの古墳群における古墳の大きさや数・形は、300 年間の長きにわたるこの地域の覇権争いを象徴しています。



日向地方の古墳群分布図（前方後円墳がある古墳群のみを表示しています。）

大きな川ごとに
たくさんのおふんがあります。
広い平野にたくさんのおふん
くんがあるのがわかりますね。

2. 一ツ瀬川流域の古墳と古墳群

宮崎県の中央部。九州山地から日向灘に流れる一ツ瀬川の流域には、日向地方でも有数の古墳群が密集します。古墳時代前期には、この流域の多くの地に首長たちが競うように前方後円墳を造り始めました。特に西都原でつものグループが前方後円墳を造っていたことがわかっています。

しかし中期になると、女狭穂塚古墳・男狭穂塚古墳という巨大な古墳が登場するかわりに、ほかの小首長の前になったようです。2つの巨大墳の被葬者の登場によって、この流域の権力は一極集中するようになったのですが、その権力も長続きはしませんでした。中期後半になると西都原には目立った首長墓は造られず、三納造られるなど、墓をつくる場所が移り変わっていきます。

そして後期になると新田原古墳群のうち祇園原古墳群に他を圧倒する規模の首長の墓がつくられるようになったのです。

は、同じ台地上にいく

方後円墳は造られなく
いでしょうか。

古墳群に松本塚古墳が

たのです。

前期

4世紀

中期

5世紀

後期

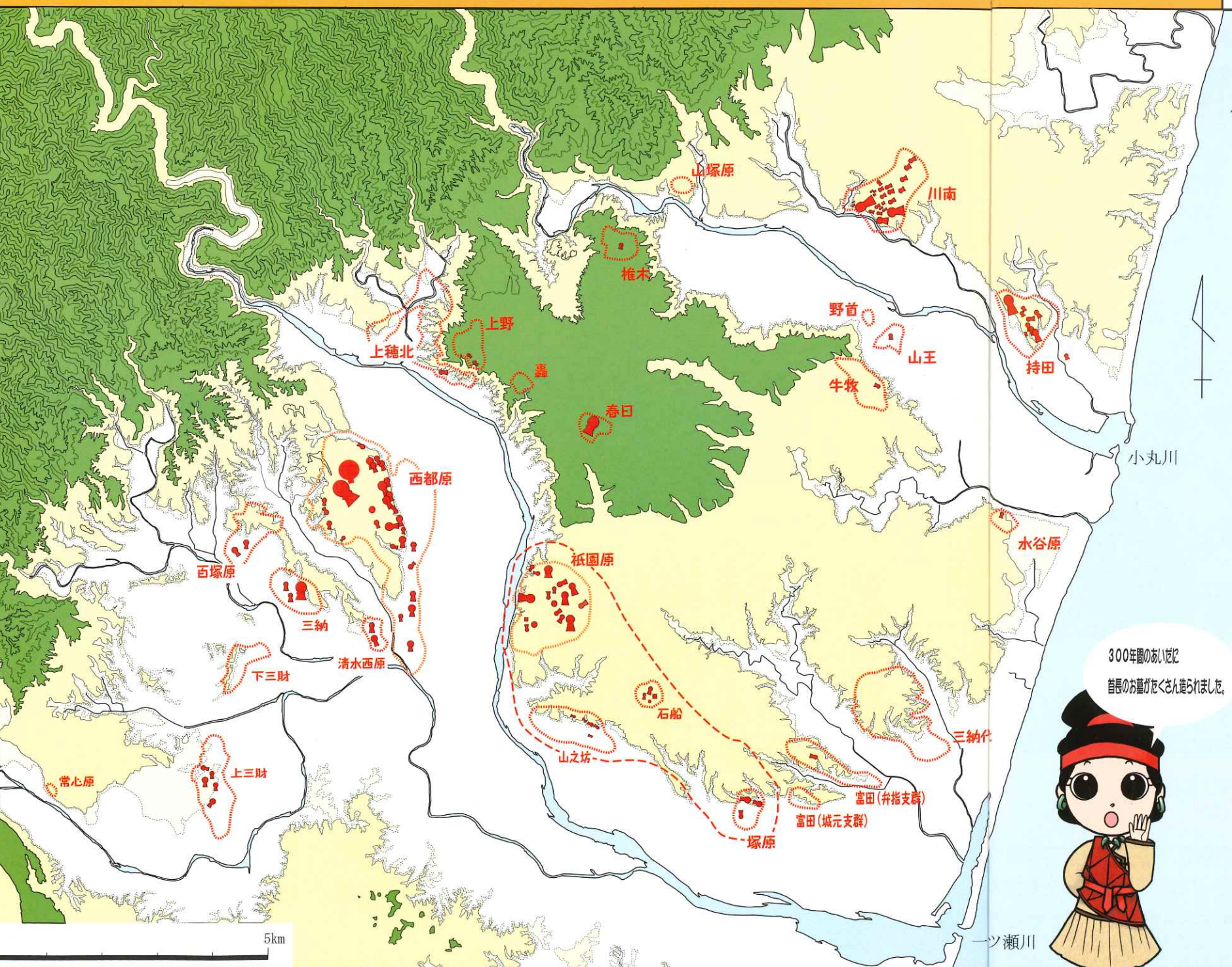
6世紀

終末期

一ツ瀬川流域の古墳編年

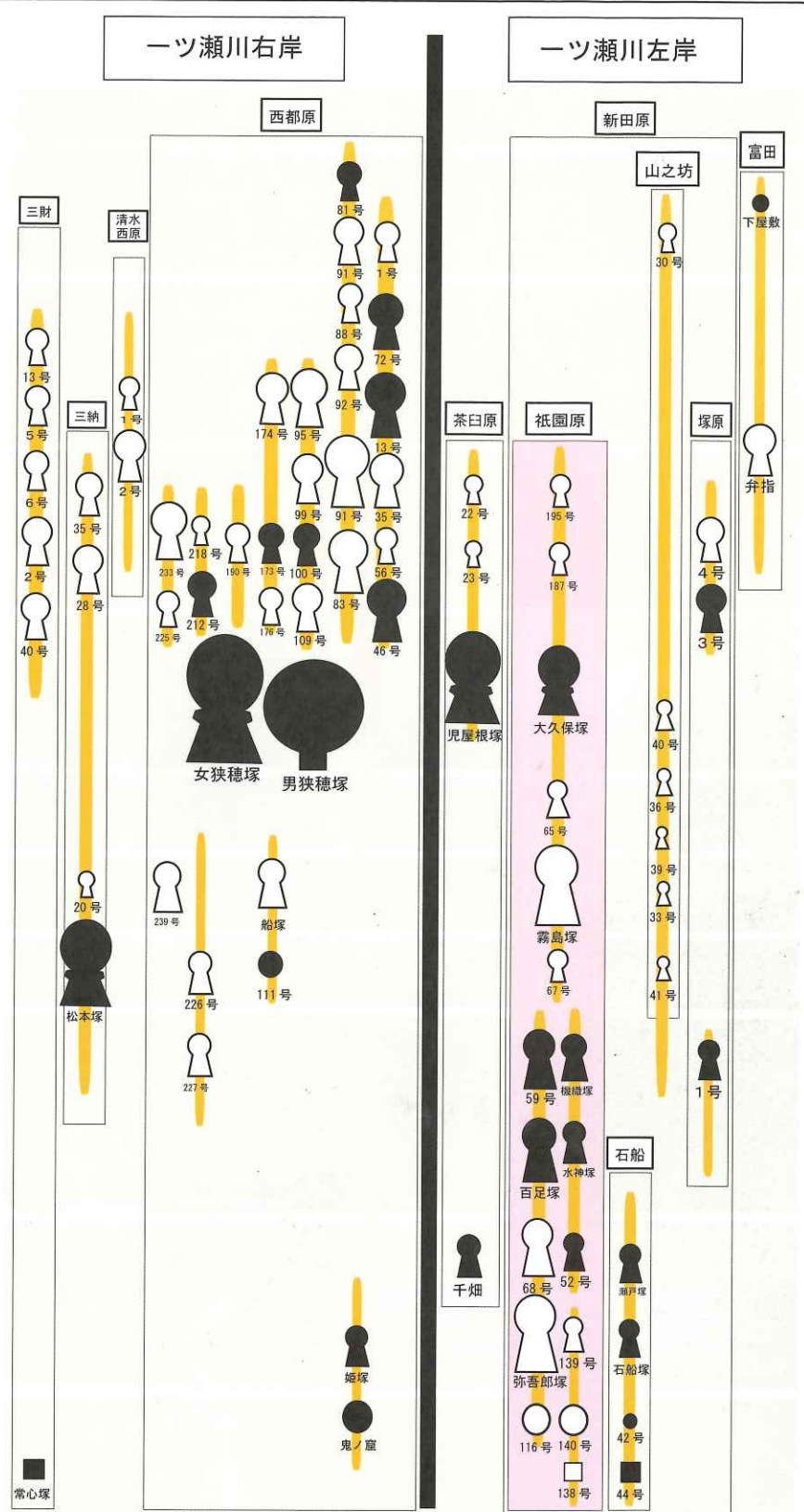
首長たちのお墓は大和政権の大王のお墓にならって、そのほとんどが前方後円墳という形で造られたと考えられます。

またその大きさによって首長同士の権力の大きさを表現したものだと考えられています。大きい古墳の造られた場所は時期によって変化することから、一ツ瀬川流域にあっても広い地域に権力の移り変わりがあることが推測されます。



一ツ瀬川・小丸川流域の古墳と古墳群の分布

300年間のあいだに
首長のお墓が次々造られました。



3. 新田原古墳群と祇園原古墳群

国指定史跡「新田原古墳群」とは、昭和19年に新田村にあった古墳すべてを保護するために付けられた古墳群の名前です。

実際の古墳の分布はおおよそ2^{きょ}ごとに離れた位置にグループが別れているので、それぞれを東から「塚原古墳群」「石船古墳群」「山之坊古墳群」「祇園原古墳群」と呼んでいます。

なかでも祇園原古墳群は、新田原古墳群の中で最大の規模を誇り、今は154基の古墳があります。発掘調査で発見されたものを含めるとかつては200を超える古墳があったことがわかっています。

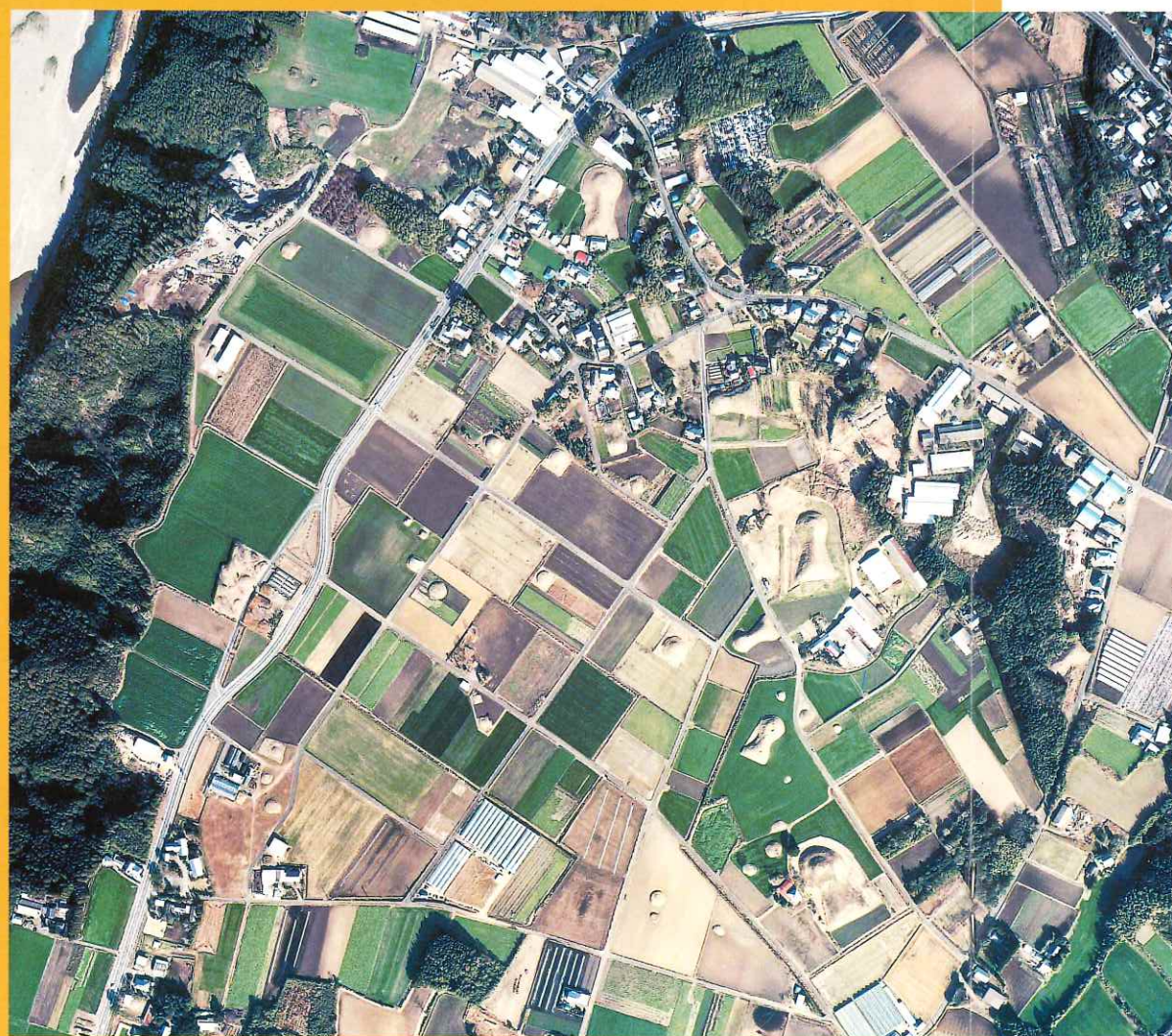
前のページの編年表でわかるように、古墳時代でも特に後期に造られた前方後円墳が多く、日向地方でも最大の後期首長系譜であったと考えられます。



祇園原古墳群の古墳分布（北から）

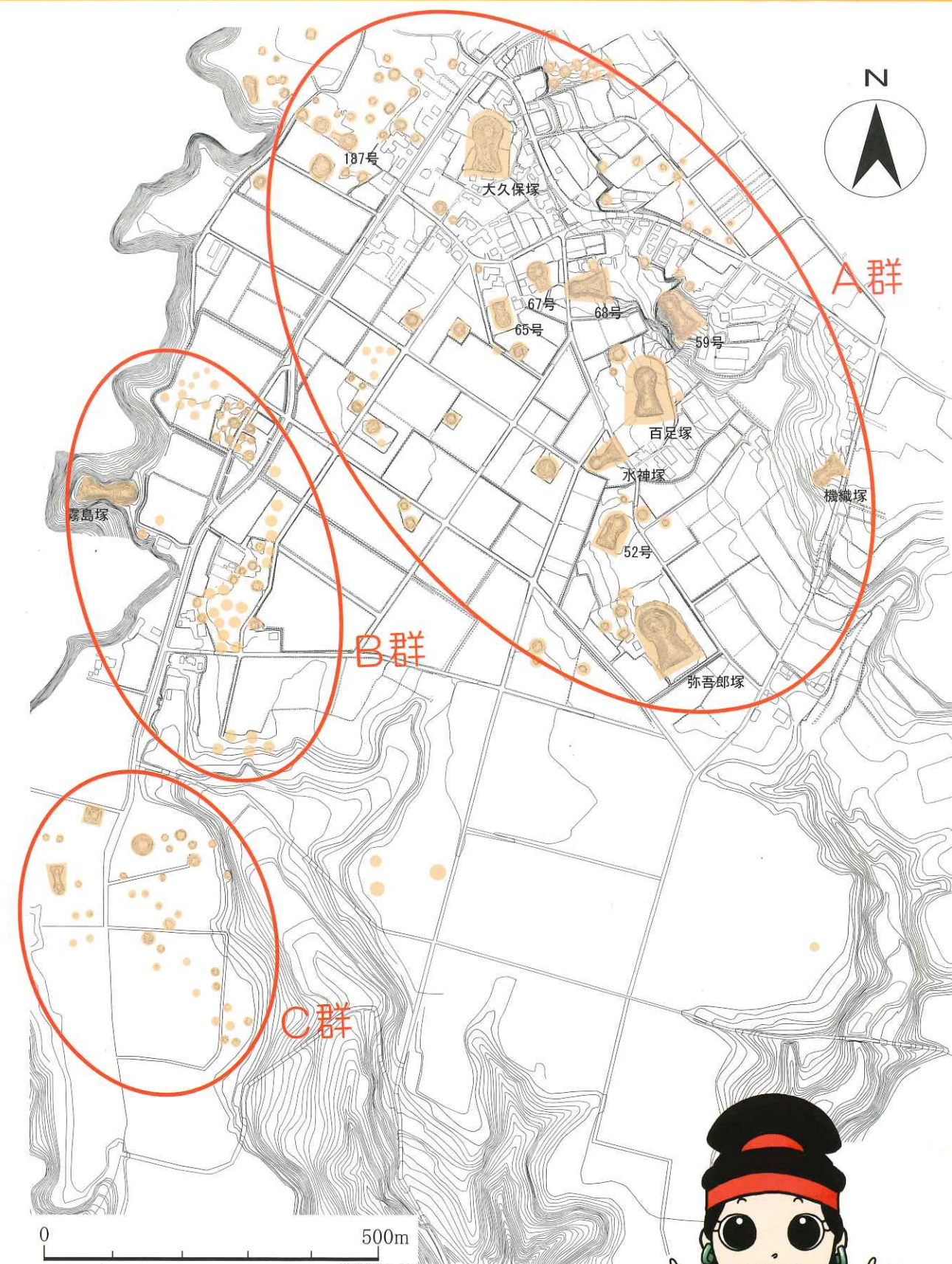


祇園原古墳群の古墳分布（南から）



祇園原古墳群の古墳分布

また祇園原古墳群の古墳分布は前方後円墳を中心としたA群と、円墳を中心としたB群・C群に区分できます。A群の前方後円墳は東から西への傾斜面を利用して大きな墳丘を造り、南北方向に代々築造されています。B群・C群からは周溝の中に地下式横穴墓を有する円墳も多数みついています。



祇園原古墳群の古墳分布

おおきな前方後円墳が
たくさんあるわ



4. 発掘された百足塚古墳

祇園原古墳群のなかでも、4番目に大きい百足塚古墳は、町で行う史跡整備の一環として発掘調査されてきました。

調査前から埴輪がたくさん出土する古墳として知られていましたが、調査の結果、西側の周堤の周辺から多数の形象埴輪片が出土し、もともと周堤の上にたくさんの形象埴輪がならべてあったことがわかりました。その数や内容は今まで発見された例では西日本でも有数のものです。

また後円部の西側側面には横穴式石室の入口が発見されました。内部は調査していませんが、埴輪などの編年から日向地方でも最も古い石室の可能性が高くなりました。

百足塚古墳は以上の調査から、墳長約80m、後円部と前方部はともに2段築成、墳丘周囲には盾形の周溝と周堤を施し、墳丘の各段には円筒埴輪列が、西側周堤には形象埴輪群が並べられていたことがわかりました。

横穴式石室の採用や形象埴輪の多量配置などから、この古墳の被葬者は、古墳時代後期における日向地方の有力首長であったと推測されます。



発掘調査前の百足塚古墳



横穴式石室の入口



円筒埴輪列の一部



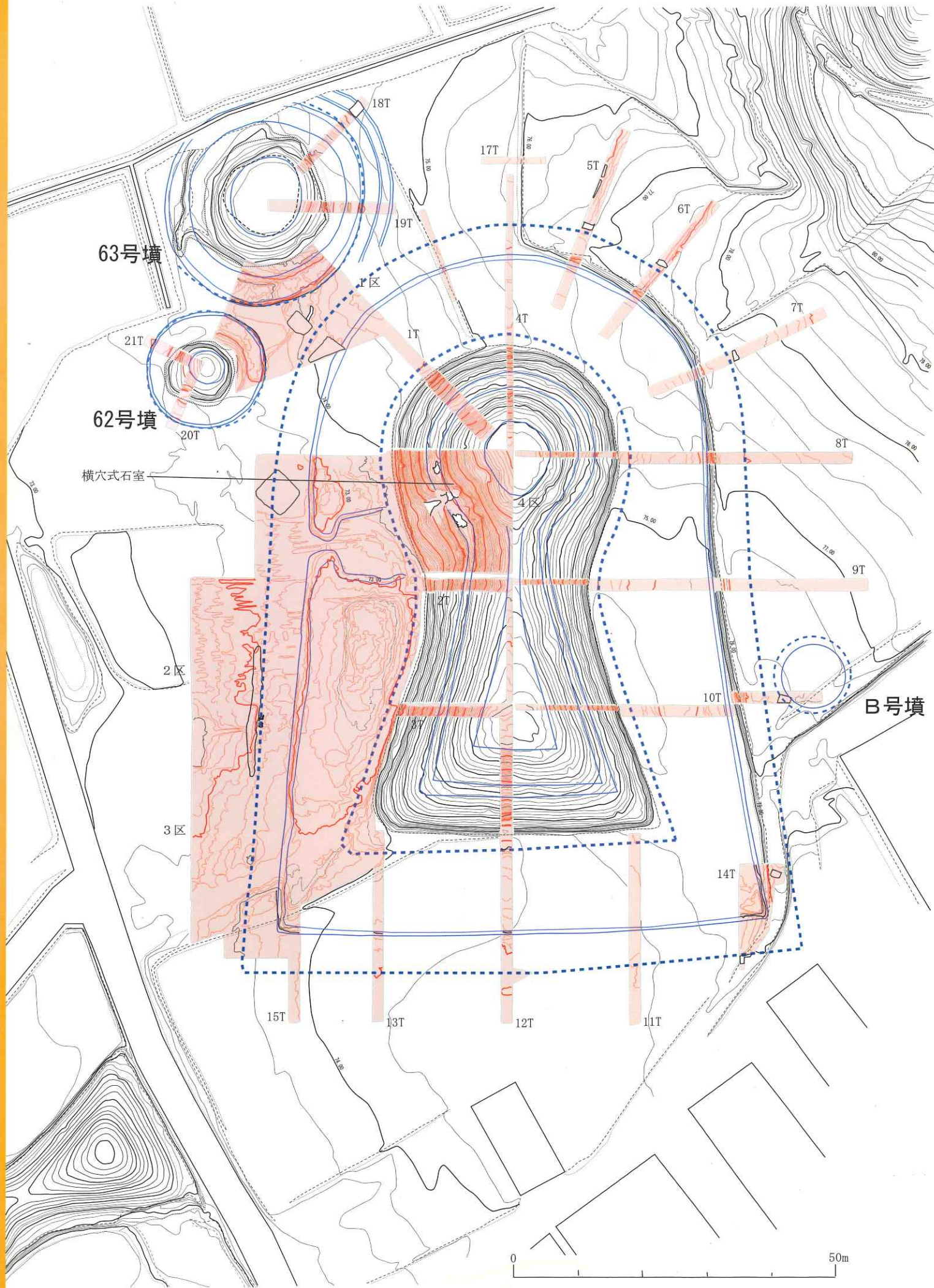
周堤から墳丘への土橋



整備中の百足塚古墳



発掘調査で
いろんなことがわかったのね



百足塚古墳の調査区（赤色で示した箇所）

5. 百足塚古墳の形象埴輪群

形象埴輪片が多量に出土したのは、墳丘西側の周堤周辺でした。

おそらく古墳ができた当時は周堤の上に整然と並べられていたと推定できます。それらがいずれかの時期に周溝や周堤の外に倒され、今私たちがそれを発見したのです。

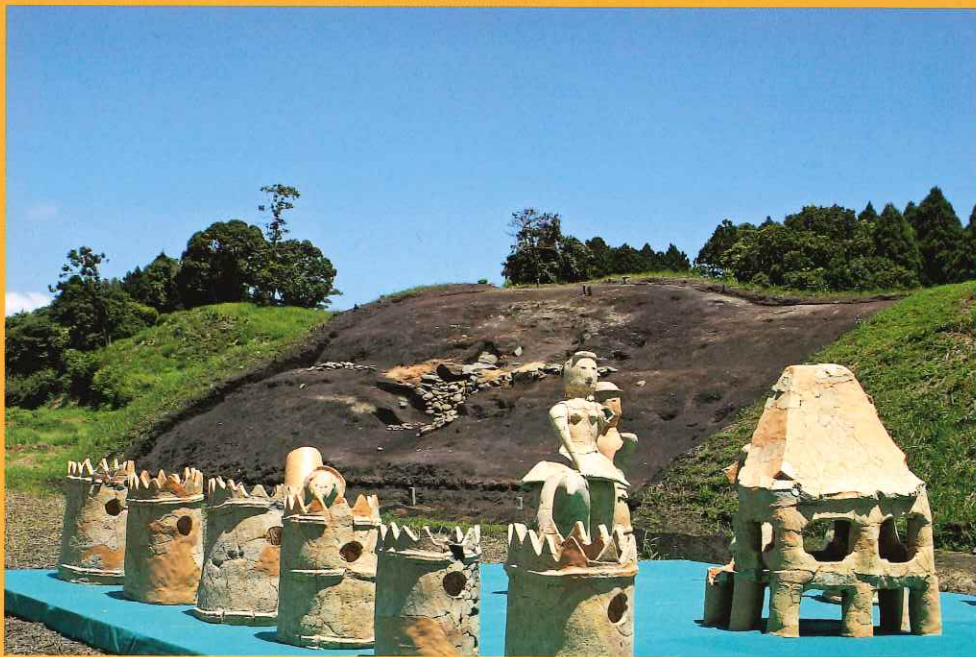
形象埴輪の種類はさまざまな姿勢や姿の人物、犬や馬や鶏、建物や柵などがあり、その数は60個体以上あります。

その出土位置からおおよその配置を推測すると、「建物の空間」から「人物が集めた空間」へ、そして「動物と人物の空間」へ配置が変化しているようです。埋葬された人物の生前世界を再現しているのでしょうか。

また西側周堤のほかにも、周堤のいくつかの場所で盾持ち人形埴輪が、墳丘のいくつかの場所で盾形埴輪が発見されています。おそらく墳丘を守る役割が期待されたのでしょう。



形象埴輪片が多量に出土した西側周堤



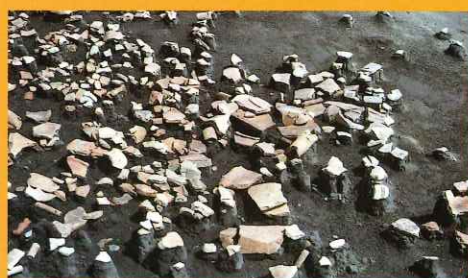
横穴式石室入口と復元された形象埴輪の一部



人物埴輪



柵形埴輪



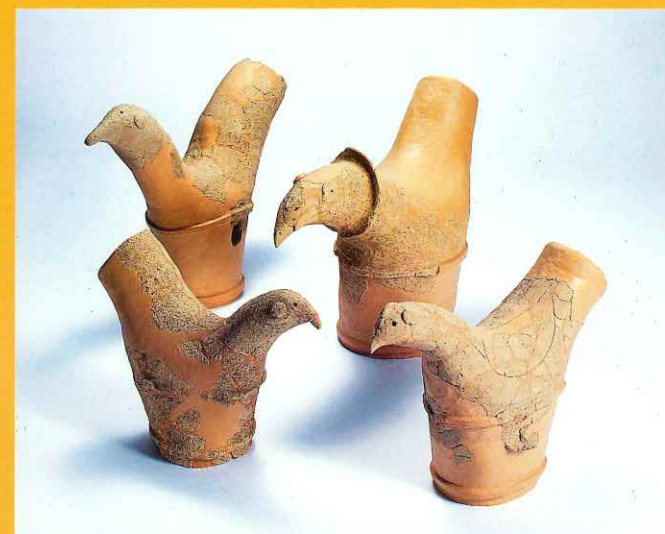
建物形埴輪



鶏形埴輪



人物埴輪



鶏形埴輪



柵形埴輪



建物形埴輪



左から盾持ち人、甲冑、盾

百足塚古墳の形象埴輪群はこれまで西日本でも検出例の少ない数と種類を有しています。

日向地方にあっても、豊富な埴輪を有する古墳は数少ないことから、大和政権と密接な関係をもつ被葬者像が浮かびます。

今後、百足塚古墳の史跡整備と同時に正式な報告書を作成し、より詳しい百足塚古墳の報告を行う予定です。

